

15日

## 働くことの意義とは 厚真中学校1年生が職業体験報告会

厚真中学校(渋川賢一校長)の1年生が同校体育館で職業体験報告会を行いました。

生徒19人は昨年10月19日に町内の事業所や役場など15カ所に分かれ職業体験学習を実施。報告会では全校生徒や受け入れした事業所の関係者らの前でスライドを使いながら体験で学んだことを発表しました。

役場まちづくり推進課で広報の仕事を経験した酒井実咲さんは「取材交渉から記事の作成・編集まですごく大変でした。取材交渉では断られてしまうこともあるので勇気や折れない心が必要だと感じました」と感想を話していました。



17日

## 町内の若者で異業種交流 あつま新鮮組が運動会

町内の農協、商工会、漁協の青年部が組織する連絡協議会あつま新鮮組(荒城一憲会長)主催の『あつま新鮮組プレゼンツ熱血!運動会2018』が、厚真中央小学校体育館を会場に開催されました。

運動会には町内の団体・事業所等に勤務している方や町内在住者など約50人が参加。2チームに分かれ、床に置かれたカードを制限時間内で自分のチームの面に多く向けるゲームなど同会が考案したオリジナルのゲーム等を通じて参加者は楽しく交流しました。



22日

## 札幌大学の学生3人がインターンシップ

田舎と大学が連携して地域活性化をめざす「田学連携事業」の一環として2月2日から2月23日まで、札幌大学の学生3人がインターンシップ(職業体験)を行いました。

学生は2期に分かれ、主に役場業務を中心に体験したほか、町商工会青年部が主催する「スターフェスタ2018inあつま」の運営補助や軽舞遺跡発掘整理事務所で埋蔵文化財の見学、企画案のプレゼンテーションなどを行いました。参加した学生は「インターンシップは終了したが、今後も交流を続けていきたい」と感想を話していました。



26日

## 厚真中学校と坂本教諭(中央小)が 平成29年度北海道教育実践表彰を受賞

厚真中学校(渋川賢一校長)と坂本和利教諭(厚真中央小学校)が平成29年度北海道教育実践表彰を受け、各学校で表彰授与式が行われました。

厚真中学校はコミュニケーション能力の向上を図る教育活動を推進し、豊かな心をもち自ら学ぶ生徒の育成に取り組んだこと、坂本教諭は胆振管内における授業改善のリーダーとして小中学校の学力向上や道徳教育の推進に尽力したことが評価されました。

渋川校長は「歴代の先生方や保護者の方が築き上げてきた取り組みが評価されて光栄です」、坂本教諭は「関係者の皆さんがしっかり教育活動に取り組んでくださっているのが、代表してこの賞をもらった気持ちです」と喜びを話していました。



表彰状を受け取る渋川校長(上)と坂本教諭(下)



Town News

2月の  
あつま

6日

## 町民目線で町の事業を評価 行政評価外部評価委員会が結果報告

町が実施する行政評価の客観性や透明性を確保し、効率的かつ効果的な町政運営を推進するために一昨年度から取り組んでいる厚真町行政評価外部評価委員会(石橋俊樹委員長)の評価結果が終わり、同委員会が役場を訪れ、宮坂町長に評価結果の報告を行いました。

委員会から「事業数が多く、内容も複雑で分かりづらい事業もあるので、町民にも分かりやすいよう事業の整理を行っては」との意見がありました。



8日

## 糖尿病予防で長生き 健康づくり講演会

平成29年度健康づくり講演会が総合ケアセンターゆくりで開かれ78人が出席しました。

今回は旭川赤十字病院の森川秋月副院長を講師に「健康寿命のための糖尿病治療」と題して、糖尿病と認知症や脳梗塞など血管の合併症、糖尿病の予防法について講演しました。森川副院長は「がんや認知症を予防するためには糖尿病をはじめとする生活習慣病をきちんと治療すること、検診を受けることが重要」と話していました。



9日

## ボールに向かってシュート！ こども園つみきでサッカー教室

こども園つみきの年長園児を対象に、Y A G E Nフットボールクラブ(石塚東洋雄会長)によるサッカー教室が厚真児童会館で開催されました。

山岸寛さん(34歳)、羽柴輝昭さん(33歳)と町出身の澤田拓弥さん(26歳)の3人がコーチとして来園。園児23人は、ボールを使った体操やドリブル・シュートなどの基礎を習った後、4チームに分かれて総当たりの試合を行いました。園児たちは夢中になってボールを追いかけて楽しい時間を過ごしました。



9日

## 未来のあつまを考える 生涯学習講座

生涯学習講座「ともに語ろう、あつまの未来」が総合福祉センターで開かれました。講師は長野県塩尻市地方創生推進課の山田崇さん(42歳)で「持続可能な地域・人づくりと行政と市民の協働」をテーマに実践例を交えた講演を行いました。

平成23年1月から市役所若手職員が市民や上司をゲストに招いて意見交換や対話を行う「しおラボ」をはじめ、商店街の現状や課題を知るために市役所職員有志が月1,000円を出し合って空き店舗を借りる商店街にぎわいプロジェクト「nanoda(なのだ)」などこれまでの自身の取り組みを中心に話しました。山田さんは「活動を継続していくためには長大な計画をつくることよりも自分のできる範囲内で小さいことから始めることが大切」と話していました。

